

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 12 日現在

機関番号：15401

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2010～2011

課題番号：22720329

研究課題名（和文） 「ロマ／ジプシー」のディアスポラ・コミュニティ生成に関する
文化人類学的研究研究課題名（英文） Anthropological Studies on the Genesis of Diaspora Communities of
the “Roma/Gypsies”

研究代表者 岩谷 彩子（IWATANI AYAKO）

広島大学・大学院社会科学部研究科・准教授

研究者番号： 90469205

研究成果の概要（和文）：

資料収集と文献研究を通じて、「ロマ／ジプシー」のインド起源に関する理論と表象の最新動向を検討した。バルカン地域（ギリシャ、ルーマニア）で行ったフィールド調査では、1)「ロマ／ジプシー」の下位集団と集団間関係、2)「ジプシー」のインド起源の伝播のあり方と彼らによる受容の実態、3)彼らの帰属意識とインド起源説の受容を左右する諸条件（国家によるロマ政策、移動の歴史、海外での就労体験、教育程度、職業）を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：

The archive research examined the latest theories and representations regarding Indian origin of the Roma/Gypsies. The field survey conducted in Greece and Romania made three points clear: 1) different subgroups of the Roma/Gypsies and their relationship between groups, 2) the spread of the theory of their Indian origin and their acceptance of the theory, and 3) the factors influencing their sense of belonging and acceptance of the theory (national Roma policies, migration history, experiences of working abroad, academic background, and occupation).

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	2,200,000	660,000	2,860,000
2011年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：文化人類学

科研費の分科・細目：文化人類学・文化人類学・民俗学

キーワード：ディアスポラ、移動、「ロマ／ジプシー」、マイノリティー、コミュニティ

1. 研究開始当初の背景

冷戦終結後、旧共産圏に居住していたロマの西側への移動が国際的な問題となるにつれ、「ロマ/ジプシー」社会の実態把握とEU諸国におけるロマへの対応が求められている。しかし「ロマ/ジプシー」は、その移動経路の複雑さと文化的多様性から包括的な研究の蓄積が少なく、民族集団としての位置づけも議論の余地を残している。また、帰還先（送出先、起源）が曖昧な彼らは、国民国家の枠組みと関係が深い移民や難民の研究視角やディアスポラの議論でもとりこぼされがちであり、彼らの帰属意識の実態も明らかにされていない。

2. 研究の目的

本研究の目的は、ディアスポラ・コミュニティの生成過程について、西洋の内なる「他者」であり続けてきた「ロマ/ジプシー」の事例から明らかにすることである。なかでも、マイノリティー研究やディアスポラ論の隘路である起源の問題に焦点を当て、「ロマ/ジプシー」が起源を喪失したディアスポラとして成型されたり、そこから逸脱する動態を明らかにしながら、多元的なディアスポラ・コミュニティの生成モデルを構築する。

3. 研究の方法

「ジプシー」のインド起源説の背景と成立過程、「ジプシー」表象に関する資料収集と文献調査を行う。「ロマ/ジプシー」の帰属意識とインド起源説の伝播をうながす諸要因を明らかにするために、ヨーロッパ諸国でロマに関する最も古い記録を有し、滞在した期間も長かったとみられているギリシャと、ヨーロッパ最大のロマ人口を抱え、EU諸国で多くの出稼ぎロマを送り出しているルーマニアの「ロマ/ジプシー」、およびその関係者を対象に、インタビュー調査と参与観察を行う。

4. 研究成果

「ロマ/ジプシー」のインド起源に関する資料収集と文献調査を行ったうえで、ギリシャ（アテネ周辺）とルーマニア（ブカレスト、クレジャニ、クライオヴァ周辺、コスティネステイ、トゥルチャ、トゥルグ・ムレシュ周辺）で、「ジプシー」に関する諸政策と「ツィガン（ジプシー）」と呼ばれてきた人々の帰属意識、インド起源説の伝播に関するフィールド調査を行った。詳細は以下のとおりである。

① 「ロマ/ジプシー」のインド起源と表象に関する資料収集と文献調査

19世紀のヨーロッパとインドのジプシー政策に影響を与えた文献 [Hoyland1816;

Crabb1832]、「ジプシー」のインド起源説を否定するラディカリストの文献 [Willems 1997]、ジプシーのアイデンティティの変遷を論じた文献 [Mayall2009]、中東・近東のドムとロマの起源についての新説 [Marsh 2008] を入手し、現在の「ロマ/ジプシー」のアイデンティティ構築の歴史を把握した。また、映画『ラッチョ・ドローム』（トニー・ガトリフ、1992年）を皮切りに、様々な映画や音楽、舞踊で表象されるようになったロマ/「ジプシー」のインド起源に着目し、当事者（アーティスト、プロデューサー）へのインタビュー調査や表象分析を行った。

② ギリシャのロマの歴史と帰属意識

1980年代まで国籍が正式に与えられていなかったロマ（「ロマ」）だが、国家単位で組織的な迫害が行われたことはなく、社会への同化政策がとられてきた。ロマのなかには社会で成功する者もあり、全体としてギリシャへの帰属意識が強い。ロマニ語が話せないルーマニア系のルダリ、ギリシャを中心に移動してきたロマ、トルコとの住民交換によって流入したロマ、アルバニア系移民ロマ、ギリシャ出自とみられるハルキデオスなど、同じ「ツィガン（ジプシー）」と呼ばれる集団内でも自称や移動の経路と歴史が異なる集団の存在が、ロマ全体の連帯を困難にしている。定住度が低く就学経験がないロマほど、インド起源説に対する応答は鈍い。その一方で、10年未満の教育を受け、海外の情報に触れる機会が多いロマほどインド起源説になじみがあり、特に音楽を生業とするロマの間では、（インド起源の）「ジプシー」というカテゴリーが新たなアイデンティティ形成と生業の資源となっている。

③ ルーマニアのロマの歴史と帰属意識

構造的なロマ迫害の歴史があり、社会にはロマに対する差別意識が根強い。生業や居住地域によって、20以上の下位集団に分かれており、ルーマニアへの帰属意識よりも、ロマ全体あるいはそれぞれの集団に対する帰属意識の方が強い。ロマの社会進出も見られるがロマ集団内での貧富の格差は大きく、1990年代以降、ロマのネットワークを利用して海外へ出稼ぎに行く事例も複数あった。異なる地域での聞き取りと、UNICEFと教育省が支援するロマニ語講座での参与観察の結果、マイノリティー教育の一環として行われているロマ教育の現状と、教育の場がロマのインド起源説とロマニ語を伝える場になっている状況が明らかになった。またギリシャ同様に、音楽を生業とするロマの間では「ジプシー」というカテゴリーが新たなアイデンティティ形成と生業の資源となっている。

本研究の意義は、第一に、「ロマ/ジプシー」のコミュニティ認識に関して、隣接する

複数地域での調査をふまえて明らかにした点にある。従来の研究は、各国個別の「ロマ／ジプシー」の民族誌におさまりがちであり、複数地域を行き来する彼らのコミュニティ認識の実態に光を当てた研究は稀少である。本研究は、複数地域間の人の移動と定住の動態がコミュニティ形成全体に与える影響について考察するうえで、新たな事例を提供しうる。第二に、「ジプシー」のインド起源の伝播のあり方と彼らによる受容の実態を明らかにした点にある。これは、彼らのインド起源の是非を問うことに終始していた従来の研究視点そのものがいかに表象として流通し、当事者に流用されて新たなコミュニティ認識のリソースとなっているのか、いわばディアスポラ理論自体がもつイデオロギー的な側面を明るみに出すことになった。第三に、彼らの帰属意識とインド起源説の受容を左右する諸条件を、異なる地域におけるフィールド調査によって検討した点である。これにより、ディアスポラ・コミュニティとしての認識を形成する条件として従来指摘されていた言語や故郷についての語りの共有よりも、むしろ居住する国家の諸政策やグローバル化が、「ロマ／ジプシー」のコミュニティ認識に大きく作用していることが明らかになった。

今後の課題・展望としては、今回の研究で得られた「ロマ／ジプシー」の移動の歴史についての語りをもとに、バルカン地域における彼らの移動パターンの抽出を進めていくことである。また、彼らが「ロマ／ジプシー」であることを意識する具体的な諸局面（生業、婚姻）をさらに検討することで、統一的なコミュニティ認識の困難さとそれを越えた「ロマ／ジプシー」の連帯の可能性と必要性に関する考察を深めていきたい。それから、「ロマ／ジプシー」のインド起源表象を受けて生じた、ヨーロッパからインドへの人の移動にも着目し、北西インドの特定の集団が「ジプシー」として紹介されることで新たな「ロマ／ジプシー」・コミュニティが成型されていく動態について、さらなる調査を行ってきたい。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計1件）

1. 岩谷彩子, 書評へのリプライ、「松川恭子、岩谷彩子著『夢とミメシスの人類学—インドを生き抜く商業移動民ヴァギリ』」、『宗教と社会』, 16巻, 査読なし, 2011, pp.167-170

〔学会発表〕（計3件）

1. 岩谷彩子, 「露天商政策にみるインド公共

空間の変容—アーメダバードの事例より」, 第24回日本南アジア学会, 2011年10月1日 大阪大学

2. 岩谷彩子, 「ディアスポラになりきれない人々—『ロマ／ジプシー』が分有する起源と共同体の現在」, 日本文化人類学会第45回研究大会, 2011年6月11日, 法政大学

3. 岩谷彩子, 「占いを時間的展望の共同構築の場として捉える」, 第22回発達心理学会, 2011年3月25日, 東京学芸大学

〔図書〕（計5件）

1. 岩谷彩子, 晃洋書房, 『コンタクト・ゾーンの人文学』, 2012年, 掲載決定。

2. 岩谷彩子, 新井一寛, 葛西賢太, せりか書房, 『映像にやどる宗教、宗教をうつす映像』, 2011年, 289頁

3. 岩谷彩子, 京都大学学術出版会, 『ものの人類学』, 2011年, pp.235-253

4. 岩谷彩子, 世界思想社, 『時間の人類学—情動・自然・社会空間』, 2011年, pp.254-277

5. 岩谷彩子, 世界思想社, 『南アジア社会を学ぶ人のために』, 2010年, pp. 144-156

〔その他〕

〔口頭発表〕

1. 岩谷彩子, 「路上は包摂空間になりうるか—インドにおける露天商政策と SEWA の試みより」, シンポジウム「福祉と開発の人類学: ひろがる包摂空間とライフコース」, 2012年1月21日, 国立民族学博物館

2. 岩谷彩子, 「ロマ・ディアスポラ試論—ギリシャのロマにみる帰属意識と起源」, 第3回ロマ（ジプシー）シンポジウム, 2011年10月22日, オリムピック記念青少年センター

3. 岩谷彩子, 「映像による宗教文化教育の課題—インドを映す映像とその受容のされ方をめぐって」, 国際研究フォーラム「デジタル映像時代の宗教文化教育—開かれたネットワークによる取り組み」, 2011年10月16日, 國學院大學

4. IWATANI, Ayako, "Japan-India Street Vendors and Beyond: The Art of Performing and Exchanging Generated from Streets", Indo-Japan Chamber of Commerce and Industry, 2011年4月30日, Chennai, India

〔報道関連情報〕

1. "The Hindu (Online edition of India's National Newspaper)", 'On the gypsy trail', 2011年5月12日, <http://www.hindu.com/mp/2011/05/12/stories/2011051250730400.htm>

2. "The Hindu (Online edition of India's National Newspaper)", 'Chronicling street culture', 2011年5月1日,

<http://www.hindu.com/2011/05/01/stories/2011050161560200.htm>

[アウトリーチ活動]

- 1.岩谷彩子,「身体化された歴史を生きる人々—ギリシャのロマの生活と音楽」, 模擬授業『学問探求講座』, 2010年10月19日, 広島県立広高等学校
- 2.岩谷彩子,「ロマとはだれか」, J-WAVE『JAM The World』内ワンコーナー『佐川急便 CASEFILE』, 2010年9月6日~9日放送

6. 研究組織

(1) 研究代表者

岩谷 彩子 (IWATANI AYAKO)

広島大学・大学院社会科学研究科・准教授
研究者番号：90469205

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：